



ISSN 0385-0838

第 178 号

発行所

亜細亜大学アジア研究所
東京都武蔵野市境5-8
電話 0422(54)3111
郵便番号 180-8629

中朝経済関係と北朝鮮の経済

今村 弘子

一、中朝経済関係と中国の制裁の行方

中国にとって北朝鮮との貿易は全体の1%にも満たないが、北朝鮮にとっては中国との貿易は貿易全体の9割を占めている。したがって北朝鮮の経済を推測する際に、中国との貿易がどのようになっているかを見るのが欠かせない。

北朝鮮に対する国連の経済制裁は二〇〇六年に北朝鮮が核実験をしたことに対する制裁が最初であったが、以降二〇一五年までに九回発動されている。二〇一六年からは北朝鮮がミサイル発射実験や核実験を頻発させたことから、

この間の経済制裁では、北朝鮮の主要輸出品である石炭や鉄鉱石などの鉱産物や衣類、水産物などの輸出が軒並み禁止され、原油や石油製品

の輸入には上限が設けられた。また北朝鮮から海外への出稼ぎ労働者も二〇一九年の12月22日までに帰国させるようにという制裁もあった。つまり北朝鮮の主要な外貨獲得手段が封じられたことになる。

中国は、二〇一三年に北朝鮮が核実験をした後に発動された国連の経済制裁決議案二〇九四に合わせて、公告59号を發布し、大規模殺傷兵器とその運搬設備に関連する物資と技術の北朝鮮への輸出を禁止した。その後も国連の制裁決議に合わせて、商務部と海関総署が中心となって北朝鮮への制裁の公告を發布した。

習近平時代になってから中国が制裁を行うようになった背景には胡錦濤と習近平の北朝鮮に対するスタンスの違いがある。胡錦濤時代は北

目次

- 中朝経済関係と北朝鮮の経済 …… 今村 弘子 …… (1)
- 李文亮、蔣彦永 ……
 コロナウイルス告発医師の栄光と末路 …… 日暮 高則 …… (4)
- ラーマ物語から見た北インドの季節と年中行事 …… 坂田 貞二 …… (6)
- 写真が語る韓国「原風景」③ …… 前川 恵司 …… (8)
- 東アジアにおけるCOVID-19 関連医療物資の貿易の現状と課題 …… 久野 新 …… (10)
- 「中国のデジタル・理工系人材を受け入れるために」 …… 九門 大士 …… (12)

朝鮮に対し「先経貿(経済と貿易を優先する)」であったのに対し、習近平時代には「先非核」が唱えられていた。

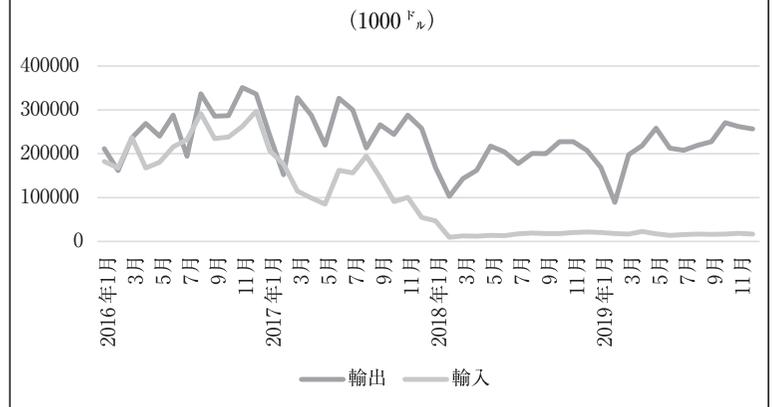
胡錦濤時代の二〇〇九年には北朝鮮が核実験をしたにも関わらず、中朝の国交樹立60周年ということもあって、温家宝総理(当時)が訪朝、鴨緑江にかかる老朽化した中朝友誼橋に替わる新鴨緑江大橋の新設などの援助を約束した。ただし橋本体は二〇一四年に完成したものの、北朝鮮側の橋までのアプローチの道路を北朝鮮が建造しなかったことから、橋は未使用のままであった。ところが二〇一九年の習近平訪朝の際に、道路や通関施設の建設援助を約束したとの

報道があり、実際二〇二〇年一月の衛星写真をみると、それまでなかった道路が敷設されていることがわかる。この大橋を使って中朝の物流が増えれば、しかもトラックの場合、運搬している物資が何かもわかることから、実際に通行が開始されれば経済制裁違反があらさまになつてしまう場合もある。

習近平時代になると、中朝関係は一変する。習近平は訪朝より前に訪韓した(二〇一四年)。一方北朝鮮はG20や一路など中国で開催される国際会議の開催にあわせるようにミサイルを発射した。中国としては面子をつぶされたことになる。

ただし(図1)に見られるように、二〇一六年までは中朝貿易は大きくは減少しておらず、中国が北朝鮮に対し本気で制裁を課したようには見えない。経済成長が続いていた中国のなかで、遼寧省や吉林省は古くからある重厚長大産業が中核産業だったこともあり、相対的に地盤沈下していた。一方遼寧省や吉林省には朝鮮族の人も多く暮らしており、その人たちのなかには北朝鮮との取引を生業にしている人もいる。北朝鮮との貿易を停止したならば、国家から休業補償がでるわけでもなく、たちまちその人たちは生活に困ることになる。そうなれば地盤沈下が一層進みかねない恐れがあった。そのため中国としても直ちに制裁を本格化させるわけに

(図1) 中国の対北朝鮮貿易 (月別)



(資料) Global Trade Atlas

はいかなかった。

さらに北朝鮮を追い詰めすぎて、北朝鮮が崩壊するようなことがあれば、北朝鮮から難民が押し寄せてくる可能性もあった。中国の朝鮮族の人々と北朝鮮の人々は反目しあう場合もあるが、漢族に対すると、朝鮮族アイデンティティが生じる。もし朝鮮族のなかで独立運動の兆しが芽生えてしまえば、中国内にいる他の少数民族に飛び火する可能性もある。

さらに現在は曲がりなりにも国家によって管理されている北朝鮮の核物質および核技術者が、国家の崩壊とともに散逸する可能性もある。それに乗じてテロ組織のどこかが核物質や核技術者を入手することもあり得よう。

このような恐れがあったために中国としてもあまり北朝鮮を追い詰めることはできなかったわけだが、北朝鮮で事実上(de facto)の市場化が進み、一九九〇年代半ばの「苦難の行軍」といわれる時代に比べれば「豊か」になってきたことから、経済制裁しても大丈夫という判断があったのかもしれない。

中朝貿易は二〇一七年後半から中国の輸入を中心に減少していった。北朝鮮の主力輸出品であった石炭や鉄鉱石、銅、鉛、亜鉛、水産品などは二〇一八・一九年と軒並み実績なしとなり、かわって制裁の対象になっていない、時計や人髪のかつらやつけまつげが北朝鮮の対中輸出の上位品目になった。

中国の対朝輸出については月別では増減が激しいのでわかりにくいだが、年間で見ると二〇一六年32.0億ドル、17年31.3億ドル、18年22.4億ドルと減少していったが、19年には25.9億ドルとやや回復した。ただし中国の二〇一九年の主要輸出品のなかでは、通関統計上では、石油製品は1.1万トンで、制裁上限の6万トンよりはるかに少ない。さらに人道援助なのかコメ16.2万トン、トウモロコシ2.3万トンなどが

輸出されている。北朝鮮への原油輸出は二〇一四年から中国の貿易統計に計上されていない。

もちろん中朝間には密輸もあると思われる。

国連の北朝鮮制裁専門家パネルによると、二〇一九年一〜八月で370万トンの石炭を北朝鮮は密輸出しているが、少なくとも280万トンは中国へ輸出されており、船から船へ荷物を積み替える「瀬取り」の方法がとられているという²。北朝鮮の市場（チャンマダン）で売られている日用品の多くが中国製ともいわれていて、中朝貿易は通関統計に計上されている数字以上になっ

てゐることは確かである。

二、陰の主役・米国、および北朝鮮の経済

二〇一八年以降の金正恩の五回にわたる訪中、19年の習近平の訪朝を経て、中朝間では党および国家関係が完全に修復されたように見える。二〇一九年12月には中国とロシアが、制裁の緩和案を国連の安全保障理事会に提案したことも、中国の北朝鮮に対する態度が軟化したことを示しているようにも見える。なぜこのような変化がおきたのか。

中朝関係にとって重大な影響を及ぼしたのが米国であった。

最初の米朝首脳会談こそ韓国の仲介を要したが、その後米朝両首脳は親書を出し合い、良好な関係をアピールしていった。金正恩も二〇二〇年になれば米国の大統領選で、トランプが北朝

鮮問題に力を注がないのはわかっていた。だからこそ二〇一九年内に制裁の解除を含む何らかの米国の回答を欲していた。北朝鮮は「クリスマス・プレゼントに北朝鮮が何を送るかは米国次第だ」と語り、米国の回答を促そうとしたが、結局回答は得られず、北朝鮮も挑発的な行動をとることもなく、二〇一九年は終わった。二〇二〇年二月にトランプは「大統領選の前に米朝首脳会談はやりたくない³。」と語ったと伝えられている。これ以上首脳会談を行っても大統領選に有利になるような誇るべき成果を上げられそうもないと見限ったようである。

一方中国は米国との間で貿易戦争をかかえていた。二〇一八年八月に国務長官ポンペオの訪朝が寸前にとりやめになったときに、トランプは29日に「北朝鮮が中国からの多大な圧力の下にいると強く感じている、なぜなら米国と中国との貿易摩擦があるからだ」とツイートした。これに対し翌日の「環球時報」は社説で「貿易戦争は貿易戦争であり、その他の圧力で突破できるとの幻想を抱いてはならない。中国は朝鮮半島の問題を補助戦線としようとしていると米国は考えているようだが、それは自分勝手な憶測である」と述べていたが、中国も米国が北朝鮮をかなり意識していることに気づいたようである。ただし中国も米国も二〇二〇年三月現在新型肺炎の対応に追われ北朝鮮どころではなくなっている。

米国が北朝鮮問題に関心をむけている間は、中国としても北朝鮮が対米一辺倒にならないように、北朝鮮への影響力を強化していかねばならなかった。米国が二〇二〇年のように関心を持たなくなれば、中国としても無理をする必要はなくなってくる。

北朝鮮にとってみれば、米国、中国と等距離外交をとって、両国から庇護を受ける関係を築こうとしていたものが、あてが外れた状況になっ

（いまむら ひろこ・富山大学名誉教授）

¹ <https://www.yonkore.com/korea/korea-economy/5239210> (二〇二〇年2月14日検索)

² <https://www.reuters.com/article/us-northkoreas-sanctions-un-exclusive/exclusive-northkoreas-enhanced-nuclear-missile-programs-in-2019-12-12> (2019年12月12日検索)

³ <https://edition.cnn.com/2020/02/10/politics/trump-north-korea-thaw/index.html> (二〇二〇年2月11日検索)